

令和5年度第1回中城御殿跡地整備検討委員会

■主な意見と対応方針(敬称略)

No.	項目	意見要旨	対応方針	
1	御内原・表御殿西側エリアの基本設計について	<ul style="list-style-type: none"> 文化財整備で重要なのは、往時の風景を再現し、できるだけ近代的なものを見せないこと。上之御殿エリアから余計なものが見えないよう、植栽の工夫など景観的な配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 空調室外機等の設置にあたっては、CGによるアイレベルの外観検討を実施し、影響が最小限となる配置とする。 →【資料2】参照 	
2		<ul style="list-style-type: none"> パースでは増床部とオリジナル部の壁が同じ仕上げに見えるが、区別できるようにしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 増床部分の壁は、左官調の塗装を施すことで再現外壁部分との区別と調和を図るものとする。 	
3		<ul style="list-style-type: none"> 炭御蔵の北側と東側の増床について、北側に増床するとフクギの連続性が途絶えるのではないかと。古写真でもフクギ並木があり、大中町側から見たときにフクギが途切れないよう配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 北側の敷地境界側については、フクギ並木として再現できるよう留意する。 	
4		<ul style="list-style-type: none"> 構造計画について、遺構面から計画 GL まで 50～80cm 上がると説明があった。敷地全体が嵩上げされるので、違和感がないすりつけ方が必要である。段差や本来無いスロープが生じる可能性など、建物部分と外構のすりあわせが課題なので十分検討してほしい。また、避難計画においても高低差の影響が出てくる。健常者以外の避難も踏まえ十分に検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺構保護のための建物の床レベルを今回提示する。 →【資料2】参照 バリアフリーを含めた平面計画も検討中である。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> 設備計画について、污水管を公共下水道に接続する際に脇門の下を通る計画となっているが、石積・石畳が残っている場所である。遺構が残っていない場所を通すよう配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 脇門石牆は一部解体して積み直す計画となっており、解体整備の際に、污水管についても、遺構に影響がないように整備する。 	
6		<ul style="list-style-type: none"> 資料の展示収蔵について 	<ul style="list-style-type: none"> 那覇市歴史博物館に収蔵している資料のうち、国宝 1,468 点全てを中城御殿へ移すという考えか。今後の市歴史博物館の運用についてどのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 那覇市が所蔵する国宝資料をはじめとした琉球王国および首里城に関連する資料を対象とする方針。
7		<ul style="list-style-type: none"> 国宝の所有者である那覇市が中城御殿の管理運営に参画するにあたり、体制はどうなるか。首里城公園の指定管理者との役割分担及び連携等も含め、委員会でも実現に向けた体制について十分議論していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県・那覇市・沖縄美ら島財団での協議や、文化庁との協議などを踏まえ、管理運営体制を検討中である。 	
8		<ul style="list-style-type: none"> 収蔵の仕方によって火災の被害を防ぐ方法もあるとわかってきた。首里城火災の教訓を展示収蔵のあり方に反映したい。火災後に展示収蔵環境のあり方について沖縄美ら島財団がまとめているため、情報共有しながら進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県・那覇市・沖縄美ら島財団の3者が参加する定例会議を開催し、ハード・ソフト両面から議論を行っている。これらを踏まえて、展示収蔵の平面計画を検討中である。 →【資料2】参照 	
9		<ul style="list-style-type: none"> 常設展示とは常設収蔵を意味する。国宝資料、今まで城郭内にあった美術工芸品、あるい 		

No.	項目	意見要旨	対応方針
		はそれ以外のものを収蔵することになるので、展示コンセプトも含め収蔵のゾーニングをかなり考えなければならない。	
10		<ul style="list-style-type: none"> 過年度には首里城火災で損傷した美術工芸品の修理スペースも検討されてきたが、今回の国宝資料の常設展示を受けて、それらへの影響は生じるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 損傷した財団資料の修復は財団施設で対応する予定である。また、那覇市所有の国宝資料は県外で修復を行う。 ただし、修復施設が必要なことは沖縄県全体の課題として、今後別途検討する。
11	龍潭線の舗装について	<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿正門前に位置する龍潭通りは現在、四角い石畳舗装がなされているが、もとは石粉舗装だったのではないかと想像する。ここを石粉舗装として井戸や石垣のあとを石舗装として区別するというのも一案ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を受けて、道路の管理者である南部土木事務所で検討した。現時点の整備案を報告する。 →【資料3】参照
12	龍潭線から龍潭水辺園路へ降りる階段について	<ul style="list-style-type: none"> 当該の石階段については、御冠船之時御座構之図に記載があり、中城御殿があったときに階段があったことは確認できた。 池越しに中城御殿を望む古写真がかなり残っており、昔から景観スポットであったといえる。その真ん中に木デッキを置いてしまうのは目立ちすぎるので、整備するのであればできるだけ場所を東側に寄せられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえて、地域等とも調整した結果、残存する石階段は現状を維持し、景観への影響が大きい木製デッキ階段は整備せず、松崎馬場広場から龍潭水辺園路へアクセスする方針とした。 →【資料3】参照
13		<ul style="list-style-type: none"> 松崎馬場の整備が完了すれば、龍潭の園路から松崎馬場へ上がっていくことができるので、このような景観を損なうおそれのある人工的なものは不要ではないか。地域の皆さんには園路整備の全体像が伝わっていないので「園路の通行のために階段で下ろしてほしい」という意見が出たが、松崎馬場が整備されて通行できるのであれば必ずしも木製デッキでなくてもよいと思う。 	
14		<ul style="list-style-type: none"> 勝連グスクや玉城グスクなどの事例も参考に、景観や安全面、利便性とのバランスで検討されたい。 高齢者を含め多くの人々が龍潭周りの親水空間を楽しむためにどのような階段を設置するのがよいのか、また、設置した場合に松崎馬場の景観はどのようなようになるのか、龍潭周辺を楽しむためにどのような全体的な工夫が必要なのか、総合的に考えたほうがよい。龍潭周りの景観をどう楽しむか総合的な観点から考えるべき。 	
15		<ul style="list-style-type: none"> もとの石の階段の歴史的な評価をしっかりと確認すべき。価値があるものなら景観上もふさわしく安全性のある石階段を整備するのがよい。一 	

No.	項目	意見要旨	対応方針
		方園路としては、階段も 1 箇所だけでなく複数あるほうが使い勝手がよいのかもしれない。価値を見極めてそれにふさわしい整備をするべきである。	
16	龍潭水辺園路について	<ul style="list-style-type: none"> 龍淵橋下の飛び石は滑りやすく危険であり、現在通行止めになっている。整備するのはよいが、段差が生じることになるのか。夜間など危険なので、段差の処理はきちんと考えるべき。 龍潭周りの園路は平坦だが外部につながっていない。松崎馬場園路に車いすでもつながるルートを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 園路整備を含めた龍潭周辺のあり方については、現在、「首里杜まちづくり推進協議会」のテーマ活動で、地域や関係者が主体となって要望をとりまとめ中である。
17	中城御殿正門前の照明計画について	<ul style="list-style-type: none"> 横からのライトアップで壁面を照らすのはよい。問題は安全性であり、車からガードレールが視認できるか。反射板でもよいが車が視認できる機能が必要である。 石牆をライトアップすることで中城御殿が象徴的になる。首里城とも呼応しながら長い石牆が大変印象的になるように安全性も考慮し検討していただきたい。 石牆を照らすのは雰囲気が出てよい。安全性への配慮、地域の方のご意見を反映した経緯も含めて、検討していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を受けて、中城御殿前区間の照明について道路管理者である南部土木事務所で検討した。現時点の整備案を報告する。 →【資料3】参照
18		<ul style="list-style-type: none"> 手燭型灯具ではなく埋め込み型で石牆をライトアップする案はよい。手燭型灯具について龍潭側はどうするのか。景観的に違和感があるので、龍潭側もしっかり考えないといけない。 龍潭側の照明をどうするかは課題であるので、南部土木事務所との協議が大切になる。 	